令和３年度公益財団法人国際エメックスセンター事業報告書

（令和３年４月１日～令和４年３月３１日）

１　閉鎖性海域環境保全推進事業

ア　第１３回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス13）の開催

(1)全体概要

〔開催時期〕令和3年（2021年）9月6日（月）～9月9日（木）

〔開催方法〕オンライン（※エメックス特別セッションは神戸ポートピアホテルで開催。）

〔主　催〕　国際エメックスセンター

〔共　催〕　河口域・沿岸科学学会（ECSA）事務局

〔参加者〕　47ヵ国　450名

〔内　容〕

・開会あいさつ：　鈴木 基之　国際エメックスセンター会長 ほか

・エメックスセンターの概要紹介：　渡邉 正孝　国際エメックスセンター理事、科学・政策委員長

・基調講演：　計10講演（斎藤 光代 岡山大学准教授を含む）

・セッション：　計30セッション（エメックス特別セッション3、その他27）

・閉会式：　EMECSによる優秀ポスター賞（一般発表者対象）の発表、
ECSAによる優秀口頭・ポスター発表表彰（学生発表者対象）、
次回エメックス会議（ロシア・ムルマンスク 2024年9月予定）の開催地紹介、
会議全体総括（渡邉 正孝　国際エメックスセンター理事、科学・政策委員長）

(2)エメックス特別セッション

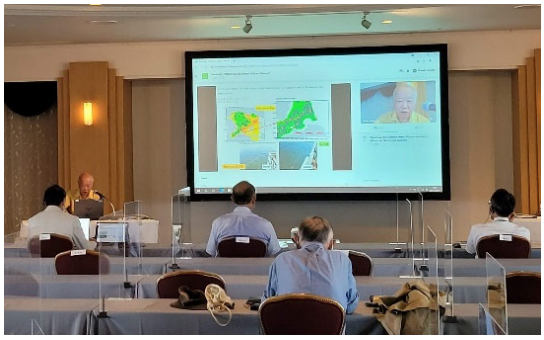
①統合的沿岸管理（ICM）と里海セッション（9月7日(火)、8日(水)）

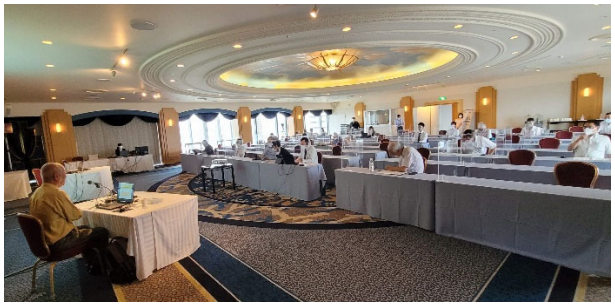
〔内　容〕海の環境保全のための統合的沿岸管理（ICM）の効果的方法である「里海」の概念について議論し、国際的に発信した。

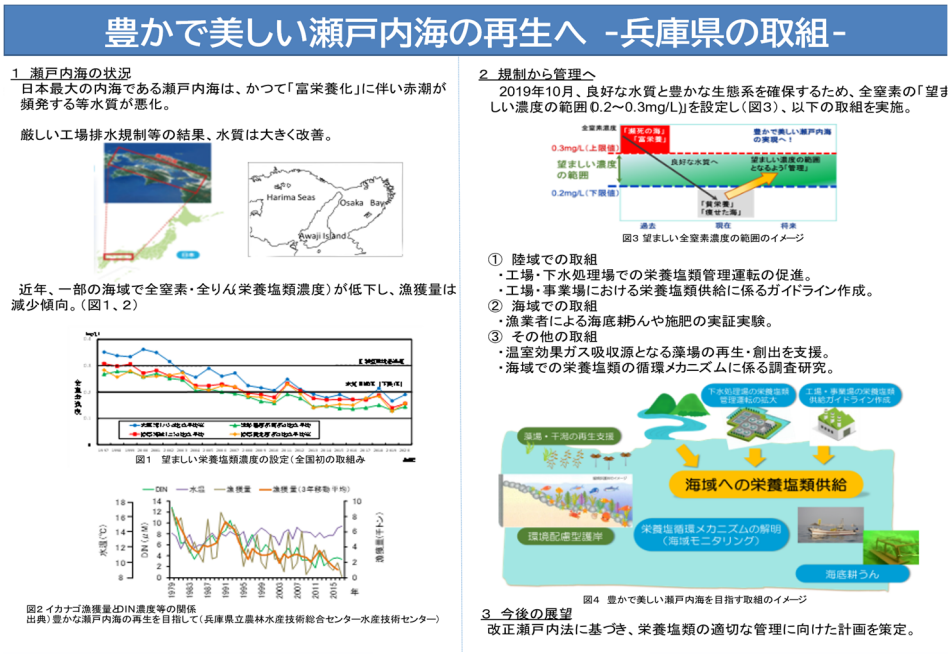
〔座　長〕柳　哲雄（国際エメックスセンター理事、科学・政策委員、九州大学名誉教授、特定非営利活動法人 瀬戸内海研究会議理事長）

〔発　表〕口頭発表16件（日本6、アメリカ5、タイ1、ノルウェー1、フィリピン1、中国1、韓国1）

ポスター発表1件（兵庫県）発表者：齋藤 元彦　兵庫県知事
遠藤 英二　兵庫県環境部長







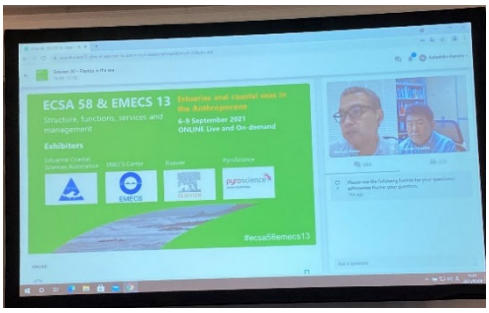
兵庫県ポスター

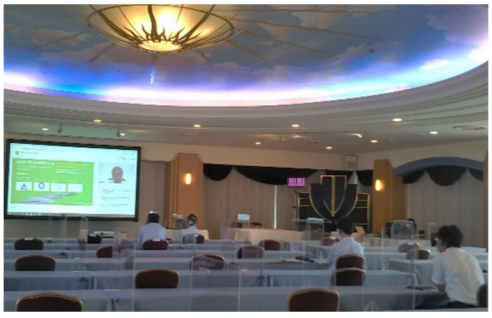
②海洋プラスチックセッション（9月8日(水)）

〔内　容〕世界的な問題になっている海洋プラスチック汚染の海洋環境への影響について、現存量の推定、分析方法、生態学的リスク評価や将来予測などを議論した。

〔座　長〕日向　博文（愛媛大学教授）
田中　周平（京都大学准教授）

〔発　表〕口頭発表10件（日本3、中国2、オーストラリア1、ドイツ1、南アフリカ1、ポルトガル1、アメリカ1、）
ポスター発表3件（ポルトガル2、日本1）



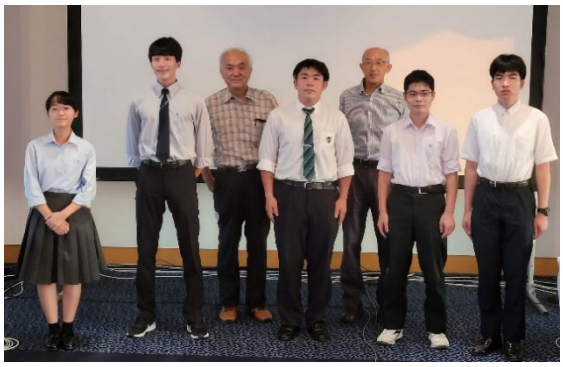


③青少年環境教育交流セッション（9月9日(木)）

〔内　容〕次世代の環境保全活動を担う青少年への環境教育を推進するため、2003年第6回エメックス会議（タイ・バンコク）以降実施しているセッションで、選抜された高校生が海外の高校生と沿岸域や流域での環境保全活動等の体験報告や情報・意見交換を通じて交流を行った。

〔座　長〕川井　浩史（国際エメックスセンター科学・政策委員、神戸大学特命教授）

〔発　表〕口頭発表15件（日本6、イギリス5、ドイツ4）



日本からの発表者と発表指導員

※日本からの発表者

	氏　名・学校名・学　年	発表タイトル
1	**小川　裕理** 兵庫県立尼崎小田高校 3年生	緑色のマイクロプラスチックの謎を解く
2	**森本　樹** 兵庫県立神戸商業高校 2年生	瀬戸内海から流出する海洋プラスチックごみ
3	**上野　陽裕** 清風高校 2年生	底泥ヘドロの除去とその活用方法
4	**君付　茉優** 立命館守山高校 2年生	大阪湾上流からの視点：琵琶湖のマイクロプラスチック
5	**竹岡　海晴** 山陽学園高校 2年生	瀬戸内海の海洋ごみ問題の解決に向けての取り組み～海洋ごみ問題を「自分事」化する実践～
6	**佐々木　涼花** 広島県立広島国泰寺高校 2年生	カキやカニのマイクロプラスチック摂取量とマイクロプラスチック密度

(3)その他

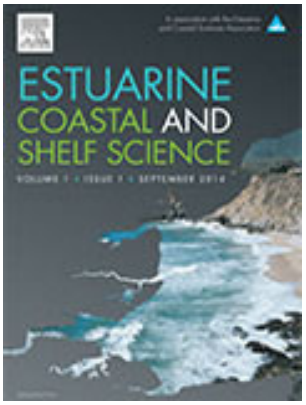
今回のEMECS13会議は、河口域・沿岸科学学会(ECSA)※[1]との共同で開催し、学究的な指向性が高いECSAと、研究者のみならず行政や市民等とのネットワークの構築を目指すEMECSが、それぞれの特徴を生かして準備・開催し、連携を強化することができた。

その成果として、これまでECSAの会議では対象としていなかった高校生が活動発表を行う「青少年環境教育交流」セッションを共催することによりECSAにとって良い刺激となり、ECSA側からも高い評価を得た。また、ECSAと関係が深いELSEVIER※[2]が発行する学会誌「Estuarine Coastal and Shelf Science」と「Ocean and Coastal Management」から会議特別号が発行されることになり、閉会式で発表された。

※[1] ECSA: Estuarine & Coastal Sciences Association　河口域・沿岸科学学会
イギリスのハル大学に事務局を置く学会で、1971年設立。
河口域及び沿岸域に関する学際的研究の推進を目的としており、若手

研究者の育成にも力を入れている。
2006年にフランスのカーンで開催したEMECS7会議もECSA40会議と共催している。

※[2] ELSEVIER(エルゼビア)：1880年オランダ・ロッテルダムで設立された。
オランダ・アムステルダムを本拠とし、医学・科学技術関係を中心とする世界最大規模の出版社で学術雑誌を多数発行している。



イ　科学・政策委員会の開催

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインや電子メールを活用し、エメックス13での役割分担、世界閉鎖性海域情報データベースの充実強化、エメックス14の開催準備等について協議を行った。

【第24回科学・政策委員会】
〔開催時期〕令和3年（2021年）7月15日（木）
〔開催方法〕オンライン
〔協議事項〕・エメックス13での科学・政策委員会委員の役割分担について
・世界閉鎖性海域情報データベースの充実強化について
・エメックス14の開催準備について

ウ　国内外機関との連携

(1)PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）との連携

PEMSEA（Partnerships in Environmental Management for the Seas of East Asia）の非政府パートナーとして、以下の会議に参加し、東アジアの海の持続可能な開発と沿岸環境管理に関する情報交換・共有等を行い、連携強化を図った。

【第13回パートナーシップ会議】
〔開催時期〕令和3年（2021年）7月28日（水）、29日（木）
〔開催方法〕オンライン
〔出席者〕　PEMSEA評議員、政府パートナー、非政府パートナー
〔内　容〕　・2030年までのロードマップ作成について

・2021年EAS会議について
・第7回EAS大臣宣言について

【2021年EAS（東アジア海域）会議】
〔開催時期〕令和3年（2021年）12月1日（水）、2日（木）
〔開催方法〕ハイブリッド
〔開催場所〕カンボジア
〔出席者〕　PEMSEA評議員、政府パートナー、非政府パートナーほか
〔内　容〕　・第7回大臣フォーラム
・第7回EAS大臣宣言署名式

※PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）
設立：1994年　国連開発計画(UNDP)により設立
（日本は2002年から参加）
構成：【政府パートナー】
カンボジア、中国、インドネシア、日本、ラオス、北朝鮮、フィリピン、韓国、シンガポール、東ティモール、ベトナム
【非政府パートナー(主なもの)】
国際エメックスセンター(EMECS)、海洋政策研究所(OPRI)、北西太平洋地域海行動計画(NOWPAP)、PEMSEA地方政府ネットワーク(PNLG)他

(2)NPO法人里海づくり研究会議との連携

松田　治エメックス副理事長が理事長を務めるNPO法人里海づくり研究会議等と連携し、「里海カンファレンス2021 in 南三陸」を開催し、里海づくりに関する情報交換や取り組み事例の紹介等を行った。
〔開催時期〕令和3年（2021年）11月6日（土）
〔開催場所〕宮城県南三陸町
〔主　催〕　NPO法人里海づくり研究会議、一般社団法人サスティナビリティセンター
〔共　催〕　公益財団法人国際エメックスセンター
〔参加者〕　会場96名、オンライン150名
〔内　容〕　各セッションで事例発表と討論を行った。
セッション1：　いのちめぐる里海里山・震災復興の10年を振り返る～学びの宝庫となった里海・里山～
セッション2：　里海と生物多様性
～研究者との出会いが生み出す里海の可能性～
セッション3：　今、里海に迫る危機　～里海の未来に向けて～

(3) 西日本国際環境協力機関連絡会との連携

西日本にある国際的な環境協力を行っている機関の連絡会である西日本国際環境協力機関のワーキンググループ・メンバーとして、「第29回西日本国際環境協力機関連絡会」に参加し、情報交換、意見交換を行った。

〔開催時期〕令和3年（2021年）12月17日（金）
〔開催方法〕オンライン
〔参加者〕＜ワーキンググループ・メンバー＞
(公財)国際湖沼環境委員会(ILEC)
(公財)環日本海環境協力センター(NPEC)
(公財)国際エメックスセンター(EMECS)
(公財)国際環境技術移転センター(ICETT)
(公財)地球環境センター(GEC)
＜オブザーバー・メンバー＞
(一財)海外産業人材育成協会 関西研修センター(AOTS/KKC)
アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)
(公財)地球環境戦略研究機関 関西研究センター(IGES Kansai)
(独)国際協力機構 中部センター(JICA/CBIC)
(独)国際協力機構 関西センター(JICA/KSIC)
(公財)地球環境産業技術研究機構(RITE)
国際連合環境計画 国際環境技術センター(UNEP－IETC)
〔議　事〕・各機関の2020年度及び2021年度の事業紹介
・ハラスメント対策の強化に向けた対応について
・コロナ禍での事業費の確保について
・コロナ禍における国際会議のあり方について
・団体の認知度を向上させるための広報戦略について

エ　調査研究事業

(1) 若手研究者活動支援制度の実施

閉鎖性海域の環境保全に資する研究に取り組む優れた若手研究者を育成支援するために助成金による研究支援を行い、若手研究者とエメックス客員研究員との交流などのネットワーク構築を図った。

〔対象者〕　国内の研究機関等に所属し、申請する年の4月1日時点で満45歳以下の若手研究者
〔助成金〕　1件あたり300万円を限度とし、審査により助成額を決定
〔助成期間〕令和3年4月1日～令和4年3月末日

〔選考方法〕国際エメックスセンター研究員会議で審査の上、採否を決定
〔令和3年度応募・採択状況〕　応募11件、採択6件
〔研究実施計画ヒアリング〕　開催時期：令和3年6月30日（水）
〔中間報告会〕　開催時期：令和3年11月22日（月）
〔成果発表会〕　開催時期：令和4年5月18日（水）

中間報告会

令和3年度採択案件

氏　名	所属・職名	研究テーマ
小森田　智大	熊本県立大学　環境共生学部　海洋生態学研究室　准教授	有明海に面する緑川河口干潟におけるアサリ資源回復に向けた統合的研究
中谷　祐介	大阪大学　大学院工学研究科　地球総合工学専攻　助教	瀬戸内海の湾灘スケールの水・物質循環に及ぼす沿岸開発の影響評価（その２）
吉田　毅郎	東京海洋大学　学術研究院　海洋環境科学部門　准教授	養殖海域の底生生物による環境負荷低減効果に関する研究（その２）
藤林　恵	九州大学　大学院工学研究院　助教	陸域から供給されるケイ素の歴史的変遷と干潟生態系の群集構造に与える影響
中國　正寿	香川大学　農学部　博士研究員	有機地球化学的アプローチからみたカキ養殖場の物質循環
比嘉　紘士	横浜国立大学　大学院都市イノベーション研究院　助教	東京湾における埋め立て・浚渫の地形変化による水底間の物質循環の変化と二枚貝生活史への影響の把握

２　情報収集整備活用事業

ア　インターネットによる情報発信等

ホームページやFacebook等によるタイムリーな情報発信を行った。また、世界の閉鎖性海域情報データベースにこれまでのエメックス会議での発表アブストラクトを追加掲載し、データベース記載項目を追加するなど、内容の充実強化を進めた。

イ　エメックスニュースレター等による情報発信

当センターの活動状況、世界の閉鎖性海域の環境保全活動等を掲載した「エ

メックスニュースレター」（日本語・英語）を発行し、情報発信を行った。
また、メール配信システム（メルマガ）を利用して、セミナーやイベント等の開催案内などを行った。

ウ　パンフレットによる情報発信

日本語版、英語版のパンフレットを活用した情報発信を行った。

エ　広報アドバイザー会議の開催

各種の広報媒体の特性を活用した広報活動を積極的に推進し、エメックスセンターの広報活動を活性化するため、令和2年度に創設した広報アドバイザー会議を開催し、アドバイザーからの助言をもとにホームページやニュースレター、メールマガジンなどの内容構成やデザイン、レイアウトなどを改善し、内容の充実を図った。

３　人材育成・普及啓発事業

ア　青少年環境教育交流セッションの開催（再掲）

次世代の環境保全活動を担う青少年への環境教育を推進するため、2003年の第6回エメックス会議（タイ・バンコク）以降実施しているセッションで、選抜された高校生6名がエメックス13会議において、イギリス、ドイツの高校生と沿岸域や流域での環境保全活動等の体験報告や情報・意見交換を通じて交流を行った。

なお、エメックス13会議での発表に備えて、選抜された日本の学生に対して、発表資料の内容や英語での発表方法について専門家による発表指導会を2回実施した。

【発表指導会】第1回：令和3年(2021年)5月29日(土)
第2回：令和3年(2021年)7月27日(火)

第2回発表指導会